

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月28日

事業所名 みんなで笑顔「木のおうち2っ!」放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	0		
	2	職員の配置数は適切である	2	2	0	送迎で手薄になる場合や1対1対応しなければならぬ子供が複数いる場合に人手不足を感じるがスタッフ間で声を掛け合っている。	配置基準は満たしているものの、1対1で対応しなければならない場合のシミュレーションを重ねて適切な支援が出来るような方法を考えていく必要がある。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	1	1		玄関の段差やトイレの設備に検討が必要。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	0	0	周りのスタッフに話せる環境になっている。	平日の午前中に合同のミーティングを重ね振り返りを行い、次回利用時の支援に活かす工夫をしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	0	面談をして保護者の意向を聞いている。	保護者のニーズを送迎時や連絡帳でいただき、その都度対応出来るようにしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	2		
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	0	外部より講師を招いて研修会を行っている。	内部ではなかなか出来ない課題分析を外部講師により行い、支援の資質向上に努めている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0	課題は一人ひとりの成長に合わせて作成している。	ミーティングで情報共有を行い、課題をみんなで共有する。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	1	1		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	0	担当を決めて行っている。	担当が主になって段取りを決め、他の支援者に協力を仰ぐ。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	同じプログラムでも内容を担当によって変えている。	担当によって内容が異なるので固定化しない。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1	0	課題は一人ひとりの子供に応じた課題に取り組んでいる。	放課後に出来る事、休日にしか出来ないことをミーティングで話して実行している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	0	リーダーが中心となって作成している。	集団活動についてまだまだ不足しているので週単位など一定のルールを決め行って行く予定。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	0	ミーティングの際話し合っている。	明確な役割分担が難しいが、その日の留意点について確認していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	0	翌日に前日の振り返りをする。	必ず議事録をとり、お休みの職員にも伝達できるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	0	子供の様子をしっかりと見て記録している。	確認簿や自分の送迎表に情報を都度書き込み次の支援に活かせるようにする。
関係機関や 保護者との 連携	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	2	2	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	0	3	1		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	0	0		

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	2	0		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	3	0		
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	1	1	・中学生ボランティアの受け入れを行っている。 ・地域の子供と公園で関わることもある。	学生ボランティアの受け入れを積極的に行っている。(中学生、大学生)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3	0		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	3	1	0	連絡帳や送迎時にデイでの活動の報告をしている。	連絡帳の大切な事柄は必ずコピーを取り、送迎時の内容についてはミーティングで共有を行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	0	2	2		根拠がある支援のためにペアレントトレーニングについて学んでいく必要性を感じている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	2	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1	0	すぐに答えられなくても必ず返事をしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	1	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	0	すぐに管理者に伝え、対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	0	ブルメリア会を年2回行っている。	不定期ではあるが開催をしている。
	35	個人情報に十分注意している	4	0	0	送迎表等は業務終了後にシュレッダーをかけている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	0	一人ひとりにあった情報伝達のツールを使っている。	子供によって伝達方法を変え、本人が負担にならないものを選んでいく。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	1		
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	0	看護師がマニュアルを作り説明している。	周知の方法が確立されていないため、確立しなければならない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	2	1		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	3	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	0		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	0			